

日語句型與測驗題型

趙順文

國立臺灣大學

摘 要

本文根據結合價語法理論，定義日語句型。認為句子由核心的述語與述語所支配的名詞項所組成。述語包括動詞、形容詞、形容動詞、名詞；名詞項為狹義的名詞加上助詞，廣義則為副詞或接續詞。

以動詞為述語的代表，則單句的動詞與其後接的助動詞或終助詞可視為**句尾型**；其所支配的名詞項為**句首型**。當句子以複句呈現時，則子句分名詞子句與副詞子句可視為**句中型**。

透過語詞隸屬句子**句首型**、**句中型**與**句尾型**的分布狀況，歸納分析日語能力測驗的1、2、3、4級關鍵詞，對於日語句型的概念與日語題型的掌握不但能深化，更可以廣泛應用在日語教學方面上。

關鍵詞：日語句型與題型、結合價理論、句尾型、句首型、句中型、日語能力檢定測驗

趙順文，國立臺灣大學日本語文學系教授

Japanese Sentence Patterns and Question Patterns

TIO, Sun-bun

National Taiwan University

Abstract

This paper aims to define Japanese sentence patterns based on Valence Grammar, which takes a sentence as the composition of a predicate phrase, the core component, and other noun phrases. Predicate phrases include verb, adjective, nominal adjective and noun; noun phrases include a noun with a particle in the narrow sense and include adverbial phrases and conjunctions in the broad sense.

Based on this point of view, sentence patterns can be classified into three categories. The first category, named “sentence-final type,” puts emphasis on verb phrases including auxiliary verbs and sentence-final particles. The second category, “sentence-initial type,” is classified based on the initial noun phrases. In a complex sentence, the noun phrase and adverbial phrase can be taken as the third category “sentence-middle type”.

According to these three categories and their distribution, we can analyze Japanese commonly used key words of Japanese language proficiency test (JLPT), divided as level one, level two, level three and level four. This method not only can deepen and expand our knowledge of Japanese sentence patterns and question patterns, but also can be applied widely in Japanese language education.

Keywords: Japanese sentence pattern and question pattern, valence grammar, sentence-final type, sentence-initial type, sentence-middle type, Japanese language proficiency test

TIO, Sun-bun, Professor, Department of Japanese Language and Literature, National Taiwan University

壹、前言

有關句型的描述因人而異，本文根據結合價理論，定義日語句型，認為句子由核心的述語與述語所支配的名詞項所組成。述語包括動詞、形容詞、形容動詞、名詞；名詞項為狹義的名詞加上助詞，廣義則為副詞或接續詞。

以動詞為述語的代表，則單句的動詞與其後接的助動詞或終助詞可視為句尾型；其所支配的名詞項為句首型。當句子以複句呈現時，則子句分名詞子句與副詞子句可視為句中型。

透過語詞隸屬句子句尾型、句中型與句中型的分布狀況，嘗試歸納分析日語能力測驗的 1、2、3、4 級關鍵詞，釐清並深化日語句型的概念與日語題型的掌握，以貢獻日語研究與教學。

貳、問題點

有關句型的研究特別是單句的句型，首推岡本(1942)。他以格助詞為分類標準列出下列 8 種句型：

- ① 《…ガ…》 (例：ホン ガ アル。)
- ② 《…オ…》 (例：オチャ オ ノム。)
- ③ 《…ニ…》 (例：キシヤ ニ ノル。)
- ④ 《…エ…》 (例：ヤマ エ ノボル。)
- ⑤ 《…ト…》 (例：トモダチ ト サンポ スル。)
- ⑥ 《…デ…》 (例：ヒコオキ デ イク。)
- ⑦ 《…カラ…》 (例：ガッコオ カラ カエル。)
- ⑧ 《…ヨリ…》 (例：ヤマ ヨリ タカイ。)

永野 (1958) 再細分格助詞，整理成下列 17 種句型：

- ① 《…ガ…》 [主語] 牛がきた。
[対象語] なにがうれしいのか。

- ② 《…カラ…》 [起点] 弘さんから手紙をもらった。
- ③ 《…デ…》 [場所・場合] 家であそびました。
[方法・材料] 切り紙で動物を作った。
- ④ 《…ト…》 [相手] 自動車としようと思った。
[指定] 弘さんが「広場で遊ぼう。」と並べました。
[並列] 弘さんと照子さんが文字版並べをしました。
- ⑤ 《…ニ…》 [場所・場合] みんな学校に集まりました。
[到着点・結果] みんな学校に行きました。
[動作の目的] 取りに行こう。
[相手] らくだにゆられて行きました。
[行われ方] かわり番に読みました。
- ⑥ 《…ノ…》 [所属・所在] 子供の顔。
[性質・状態] 童話の本を読みました。
- 《…ノ…スル／ナ…》[連体句の主語] みんなの探しているのはこれかい。
- 《…ノ》 [準連体詞・関係代名詞的用法] だれのでしょう。
- ⑦ 《…ヘ…》 [方法・帰着点・目標] 絹子さんの家へ持って行ってあげましょう。
- ⑧ 《…マデ…》 [到着点] 三階まで上がりました。
- ⑨ 《…カラ…マデ》 [範囲] 頭からしっぽまでかぶれるように作った。
- ⑩ 《…ヤ…》 [並列] お母さんの名前や所を聞きました。
- ⑪ 《…ヨリ…》 [比較の基準] ぼくよりせいが高い。
- ⑫ 《…ヲ…》 [目的・目標] ごちそうをこしらえますよ。
- ⑬ 《…ハ…》 [題目提示] 弘さんは自動車を描きました。
[事態の提示] こんどは、しりとりをしました。
- ⑭ 《…モ…》 [つけ加える] 白いもある。
- ⑮ 《…モ…モ》 [列挙] 務さんも和子さんも聞いていました。
- ⑯ 《…ニハ…》 [提示] 煙には、白いもある。
- ⑰ 《…ニモ…》 [提示] 木のうしろにもいるよ。

石綿・萩野（1983）全面性對於各國有關結合價理論研究的概況介紹後，採用「ガ・ヲ・ニ・ト・ヘ・カラ・ヨリ・マデ・デ」等 9 個格助詞與下列 11 個語意特徵，並提出日語用言 1154 個句型：

abs(抽象概念)	div(種々)	mat(材料)
act(行為)	hum(人間)	s(文)
ani(動物)	loc(場所)	temps(時間)
con(具象物)	num(數)	

惟不僅是動詞或形容詞句型的描述皆欠嚴謹，以句型 08 與句型 44 為例，描述如下：

08	仰ぐ	N[hum]が+N[loc]を+V
44	甘い	N[con]が+A

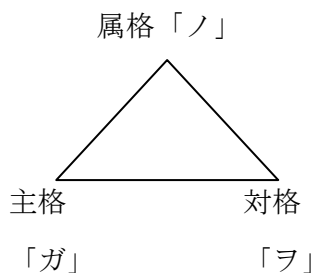
但趙（1995）透過實例「明治維新に活躍した志士の中には吉田松陰を師と仰いだ者が多かった」「江戸時代の末、長崎でシーボルトに教を仰いだ弟子の中から多くの人材が出ました」與小泉（2007）提出「毒を仰ぐ」「おばあさんは孫にあまい」「あの先生は採点があまい」等用例，認為動詞「仰ぐ」與形容詞「甘い」的句型與語意特徵有必要加以修正。

參、分析

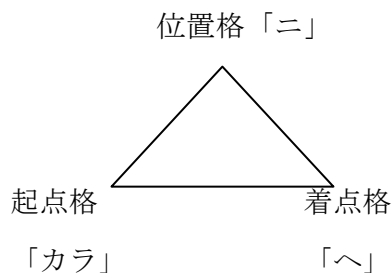
結合價理論，認為句子由核心的述語與述語所支配的名詞項所組成。述語包括動詞、形容詞、形容動詞、名詞。所支配的必用名詞項，稱為行為項；所支配的非必用名詞項，稱為狀況項。行為項通常為「名詞+格助詞」；非行為項的狀況項則為非「名詞+格助詞」或副詞或接續詞。「名詞+格助詞」的格助詞，採用小泉(2007)的說法，有「ガ・ノ・ヲ・ニ・カラ・ヘ・デ・ハ・ト・ヨリ・マデ」11 個格助詞，可圖示為下列 4 種系列：

《日本語の格助詞の体系》

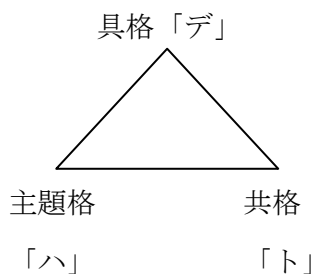
(a) 文法系列



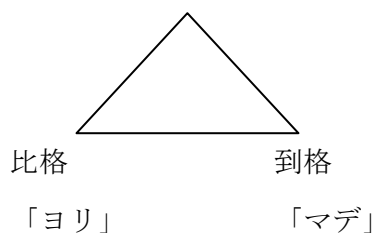
(b) 場所系列



(c) 付帯系列



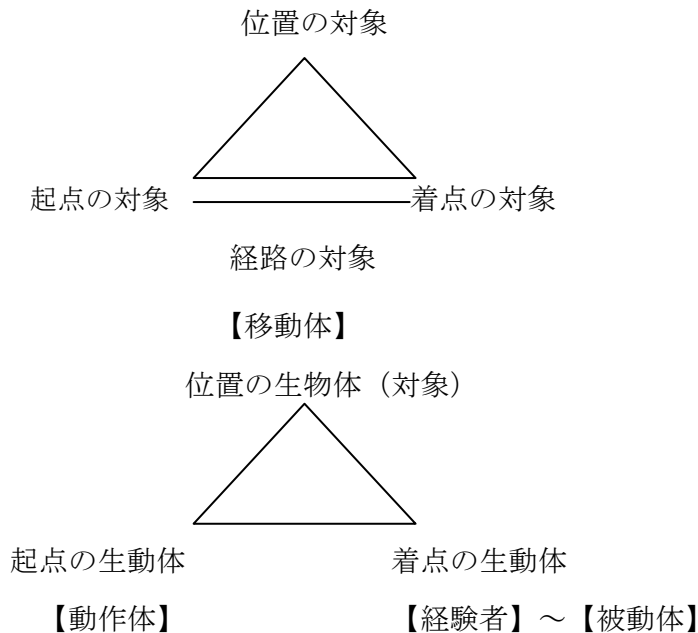
(d) 有界場所系列



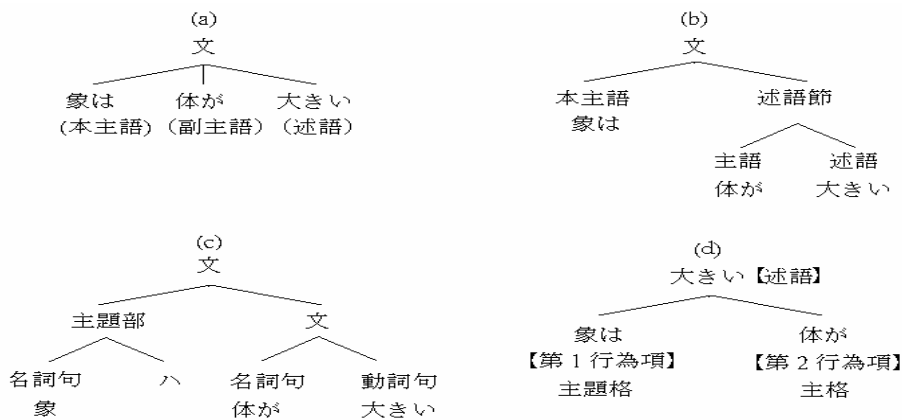
而其語意特徵如下所示，以(b)場所系列為核心義，位置格表示處於某位置的對象；起點格表示處於起點的對象；着點格表示處於終點的對象；對格表示處於途徑的對象。此種位置格、起點格與着點格透過參數的轉換，可條理化地解釋各種語意特徵。

當對象為生命體時，位置格生命體表示處於某位置的對象。起點格生命體表示發動影響力的動作主。着點格生命體表示受到心理影響時為經驗者；表示受到物理影響時為被動體。

起點格與着點格亦可對應地表示施惠者與受惠者；原因與結果；部分與全體；材料與成品。



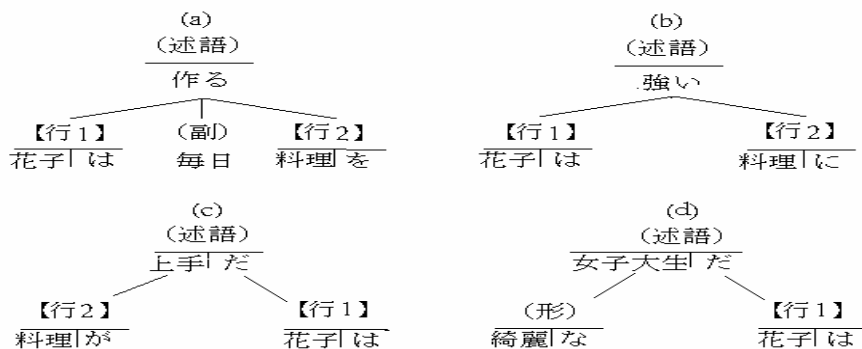
大槻 (1987) 山田 (1922) 橋本 (1969) 湯沢 (1977) 芳賀 (1962) 鈴木 (1972) 三上 (1953) 増岡・窪田 (1992) 皆視助詞「ハ」與「ガ」爲異類的助詞，惟獨時枝 (1950) 視助詞「ハ」與「ガ」爲同類的限定助詞。小泉(2007: 67,105,211) 引經據典，透過 1) 檢驗增岡・窪田 (1992) 所謂格助詞表示述語與補足語的關係，但以「地球は丸い」爲例，「地球は」亦是述語「丸い」必要的補足語，但卻排除在格助詞系列之外、2) 「かき料理は広島が本場だ」認爲不可能轉換成「?かき料理が広島が本場のこと」「?かき料理の広島が本場のこと」、3) 助詞「ハ」與「ガ」的用法並非在於句法結構的不同，而在於語意上「ハ」表示“提示”，而「ガ」表示“排他性”的差異。以「彼が来ない」爲例，消除助詞「ガ」的“排他性”，可使用助詞「ハ」，因此描述句型時，助詞「ハ」與「ガ」可互爲轉換。此外，當助詞「ハ」與「ガ」共用時，以「象は体が大きい」爲例，則山田 (1922)、佐久間 (1983) 與久野 (1973) 與結合價理論與之句法結構差異，可圖示如下：



很明顯的差異，前三者的理論在句法結構上皆侷限於傳統文法，必然地以句子整體為至高點，將句子分成兩部份或三部份後，再描述細部。而結合價理論所彰顯的核心價值，是以述語為至高點，描述述語所支配的主題格、主格與其他格位。

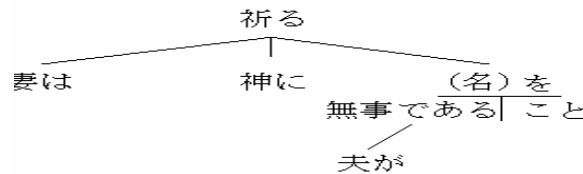
一、結合價理論的句型

如上所述所謂的日語句型即包括動詞句型、形容詞句型、形容動詞句型、名詞句型。現以「花子は毎日料理を作る」「花子は料理に強い」「花子は料理が上手だ」「花子は綺麗な女子大生だ」為例，可圖示如下：

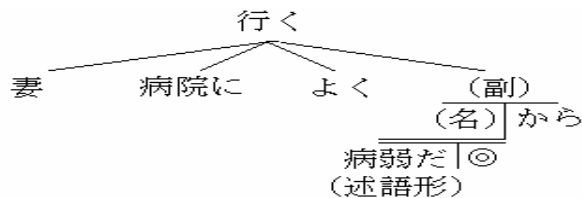


(a) 例「花子は毎日料理を作る」的動詞「作る」爲2價，支配著3項。「花子は」「料理を」各爲第1行爲項與第2行爲項，「毎日」爲副詞充當狀況項。(b) 例「花子は料理に強い」的形容詞「強い」爲2價，支配著2項。「花子は」「料理に」各爲第1行爲項與第2行爲項。(c) 例「花子は料理が上手だ」的形容動詞「上手だ」爲2價，支配著2項。「花子は」「料理が」各爲第1行爲項與第2行爲項。(d) 例「花子は綺麗な女子大生だ」的名詞述語「女子大生だ」爲1價，支配著第1行爲項。而「綺麗な」爲修飾語，修飾「女子大生」。

惟結合價理論實際操作手法重視“轉用”的概念，以「妻は神に[夫が無事である]ことを祈る」爲例，句中動詞「祈る」爲3價，支配著3項。「妻は」、「夫が無事であること」「神に」各爲第1行爲項、第2行爲項與第3行爲項。第3行爲項「夫が無事である」透過“轉用體”「こと」形成名詞，充當第2行爲項，可圖示如下：



再以「妻は病弱だから、よく病院に行く」爲例，句中動詞「行く」爲2價，支配著4項。「妻は」與「病院に」各爲第1行爲項與第2行爲項。「よく」與「病弱だから」各爲第3狀況項與第4狀況項。第4狀況項「病弱だから」爲「病弱だ」透過零“轉用體”「◎」形成名詞，再後接「から」形成副詞，充當第4狀況項，可圖示如下：



透過上述結合價理論，小泉(2007)歸納出形容詞與形容動詞句型如下所示
為 6 種：

- ～は (が) …。
- ～は～が…。
- ～は～に…。
- ～は～から…。
- ～は～より…。
- ～は～より～が…。

至於動詞句型則較複雜，小泉(2007)部份引用趙(1995)，按結合價數歸納出
1 價動詞 1 種；2 價動詞 38 種；3 價動詞 29 種；4 價動詞 2 種，如下所示共計
70 種：

1 價動詞(1 種)	1	～は(が)…
2 價動詞(38 種)	a	「～助～助…」のタイプ
	1	～は～が…
	b	「～助(助)～助…」のタイプ
	2	～は(が)～を…
	3	～は(が)～に…
	4	～は(が)～と…
	5	～は(が)～から…
	c	「～助(助)～助…」のタイプ
	6	～は(が)～を(に)…
	7	～は(が)～を(に、へ)…
	8	～は(が)～を(に、へ、まで)…
	9	～は(が)～に(と)…
	10	～は(が)～に(で)…
	11	～は(が)～に(へ)…
	12	～は(が)～に(へ、まで)…
	13	～は(が)～に(として)…
	d	「～助(助)[句](形名)助…」のタイプ
	14	～は(が)[句]のを…
	15	～は(が)[句]ことを…
16	～は(が)[句]か(どうか)を…	
17	～は(が)[句]のに…	
18	～は(が)[句]ことに…	
19	～は(が)[句]か(どうか)に…	

	e	「～助(助)～[名]形式(形名)助…」のタイプ	
	20	～は(が)[句]の(こと)を…	
	21	～は(が)[句]の(こと)に…	
	22	～は(が)[句]の(ところ)を…	
	f	「～助(助)[句](形名)助(助)…」のタイプ	
	23	～は(が)[句]ことを(に)…	
	24	～は(が)[句]ことに(と)…	
	25	～は(が)[文]か(を)で…	
	26	～は(が)[句]の(こと)を(に)…	
	27	～は(が)[句]の(こと)を(に)…	
	28	～は(が)[句]の(こと)を(に、で)…	
	29	～は(が)[文]か(どうか)に…	
	g	「～助(助)[副]…」のタイプ	
	30	～は(が)[副]…	
	31	～は(が)[動副して]…	
	h	「～助(助)[文]と…」のタイプ	
	32	～は(が)[文]と…	
	33	～は(が)[句]ものと…	
	34	～は(が)[句]もの(こと)と…	
	35	～は(が)[句]の(ではない)かと…	
	i	「～助(助)[動詞形]…」のタイプ	
	36	～は(が)[動したい]と…	
	37	～は(が)[動しよう]と…	
	38	～は(が)[動しようか]と…	
	3 価動詞 (29 種)	a	「～助～助～助…」のタイプ
		1	～は～が～に…
		2	～は～に～が…
		3	～は(が)～を/に～に/を…
		4	～は(が)～を～と…
		5	～は(が)～から～を…
		6	～は(が)～から～に…
		7	～は(が)～で～に…
		b	「～助～助～助(助)…」のタイプ
		8	～は(が)～を～に(と)…
		9	～は(が)～を～に(へ)…
		10	～は(が)～に～を(と)…
		11	～は(が)～と～を(で)…
		c	「～助～助(助)～助…」のタイプ
12		～は(が)～に(から)～を…	
13		～は(が)～に(で)～を…	
d		「～助～助[句](形名)助…」のタイプ	

	14	～は(が)～を[句](もの)と…
	15	～は(が)～に[文]と…
	16	～は(が)～に[句]ことを…
	17	～は(が)～に[文]か(どうか)を…
	18	～は(が)～に[文](の)か(と)…
	e	「～助[句](形名)助～助…」のタイプ
	19	～は(が)～[句]の(ため)に～を…
	20	～は(が)～[句]ことを～に…
	21	～は(が)～[句]ように(と)～に…
	22	上を同型で、[文]が(命令形)をとる
	23	上を同型で、[文]が(意向形)をとる
	24	上を同型で、[文]が(要望形)をとる
	25	～は(が)～[句]ように～を…
	f	「～助～助[副]…」のタイプ
	26	～は(が)～を[副]…
	27	～は(が)～に[副]…
	28	～は(が)～を～として[副]…
	29	～は(が)～に～として[副]…
4 価動詞	1	～は(が)～に～を[副]…
	2	～は(が)～に～を～で…

二、日語教材的句型

日語教材的編輯脫離不了句型表現的概念，惟此類句型按結合價理論觀點而言，有些屬於上述趙(1995)與小泉(2007)的句型，有些則需加以修正。現以教材『学ぼう！にほんご 初級1』為例，所描述的句型如下：

- 第1課 わたしは ワンです。
- 第2課 ここは 日本語学校です。
- 第3課 今、何時ですか。
- 第4課 わたしは 北海道へ 行きます。
- 第5課 ご飯を 食べます。
- 第6課 夏は 暑いです。
- 第7課 わたしは 海が 好きです。
- 第8課 あそこに ワンさんが います。
- 第9課 かばんが ほしいです。
- 第10課 ご飯を 食べています。

- 第 11 課 朝ご飯を食べて、歯を磨いて、学校へ 行きます。
 第 12 課 たばこを 吸わないで ください。
 第 13 課 ここに 座っても いいです。
 第 14 課 わたしは キムさんに プレゼントを あげました。
 第 15 課 わたしの 趣味は サッカーを することです。
 第 16 課 歌舞伎を 見た ことが あります。
 第 17 課 あした 新宿で 会う？
 第 18 課 これは 母が 作った 服です。
 第 19 課 雨が 降ったら、行きました。
 第 20 課 窓が 閉まっています。

「第 1 課 わたしはワンです」、「第 2 課 ここは日本語学校です」、「第 3 課 今、何時ですか」、「第 4 課 わたしは北海道へ行きます」、「第 5 課 ご飯を食べます」、「第 6 課 夏は暑いです」、「第 7 課 わたしは海が好きです」、「第 8 課 あそこにワンさんがいます」、「第 9 課 かばんが ほしいです」、「第 14 課 わたしは キムさんにプレゼントをあげました」、「第 17 課 あした新宿で会う？」為結合價理論的典型句型，雖然「第 3 課 今、何時ですか」與「第 17 課 あした新宿で会う？」乍看之下非屬此類，但這些只是語境上的省略而已，仍屬結合價理論的典型句型，重點在於動詞所支配的行爲項或狀況項。

「第 10 課 ご飯を 食べています」、「第 12 課 たばこを 吸わないでください」、「第 13 課 ここに座ってもいいです」、「第 16 課 歌舞伎を 見たことがあります」、「第 20 課 窓が 閉まっています」內的動詞，後接語意上皆屬助動詞的「食べ ています」、「吸わ ないでください」、「座っ てもいいです」、「見 たことがあります」、「閉まっ ています」重點在於動詞的時制與情態。

此外「第 11 課 朝ご飯を食べて、歯を磨いて、学校へ行きます」為動詞後接“転用体”的接續助詞「て」形成副詞子句；「第 19 課 雨が 降ったら、

行きました」爲動詞後接“轉用體”的接續助詞「たら」形成副詞子句。「第 15 課 わたしの趣味はサッカーをすることです」爲「サッカーをする」修飾後接的形式名詞「こと」；「第 18 課 これは 母が 作った 服です」爲「母が 作った」修飾後接的具體名詞「服」形成名詞子句。無論是副詞子句或名詞子句重點在於未斷句動詞的處置。

日語教材的句型如上所述，按結合價理論，有的重點在於動詞所支配的行爲項或狀況項，有的重點在於動詞本身與動詞的時制與情態。有的重點在於未斷句動詞形成副詞子句或名詞子句。

三、題型的機能語

以動詞爲述語的代表，按句子成分處於句內的位置如何，重點在於動詞所支配的行爲項或狀況項，可視爲**句首型**的題型。

重點在於動詞本身與其後接的助動詞或終助詞表現時制與情態，可視爲**句尾型**的題型。

當句子以複句呈現時，重點在於未斷句動詞形成副詞子句或名詞子句，可視爲**句中型**的題型。這三種可用下列式子呈現：

i) [名詞+助詞]……[動詞]。

動詞後接的助動詞與助詞常表示說話者的心態使關係的表現呈現地更具體、更生動，可描述如下：

ii) [名詞+助詞]……【 [動詞] [助動詞] [終助詞] 】。

另外感歎詞、接續詞、副詞、與數詞可視爲狀況項，可用下列式子呈現：

iii) 【[感歎詞] [接續詞] [副詞] [數詞] [名詞+助詞]……】【[動詞] [助動詞] [終助詞]】。

上述【[感歎詞] [接續詞] [副詞] [數詞] [名詞+助詞]……】區塊內的語詞可充當廣義的**名詞類句首型**的題型。【[動詞] [助動詞] [終助詞]】區塊內的語詞可充當廣義的**動詞類句尾型**的題型。而當一個或一兩個以上的單句變成子句，透

過接續助詞形成副詞子句；或一個或一個以上的單句變成子句，做為連體修飾語修飾後接的名詞形成名詞子句，兩種子句形式上皆未斷句，可視為複句並可充當**子句類句中型**的題型。現描述如下：

iv) [名詞類]……[動詞類] [接續助詞]、

[名詞類]……[動詞類]

[名詞類]……[動詞類]。

『日本語能力試驗 出題基準[改訂版]』內所記載的日語能力測驗的 1、2、3、4 級機能語，按題型的名詞類句首型、子句類句中型與動詞類句尾型的三類分布狀況可以表格做歸納整理，請參見文後附錄。

肆、結語

本文根據結合價理論，檢討日語句型與題型，認為句子由核心的述語與述語所支配的名詞項所組成。述語包括動詞、形容詞、形容動詞、名詞。所支配的必用名詞項，稱為行為項；所支配的非必用名詞項，稱為狀況項。行為項通常為「名詞＋格助詞」；非行為項的狀況項則為非「名詞＋格助詞」或副詞或接續詞。

「名詞＋格助詞」的格助詞，採用小泉(2007)的說法，有「ガ・ノ・ヲ・ニ・カラ・ヘ・デ・ハ・ト・ヨリ・マデ」11 個格助詞，並描述其語意特徵，特別對於句型的描述，將「は」助詞視為與「が」同類的格助詞，並透過結合價理論的概念圖示表示實例，整理歸納出形容詞與形容動詞句型 6 種與動詞句型 70 種。

其次分析現行日語教材的句型，如以動詞為結合價文法理論根據，則重點分屬 1) 動詞所支配的行為項或狀況項，可視為名詞類**句首型**的題型、2) 動詞本身未斷句形成名詞子句或後接接續助詞形成副詞子句，可視為子句類**句中型**的題型、3) 動詞本身或後接的助動詞或終助詞表現時制與情態，可視為動詞類

句尾型的題型。

最後以『日本語能力試験 出題基準[改訂版]』內所記載的日語能力測驗的1、2、3、4級機能語為分析素材，加以檢討並按照句首型、句中型與句尾型等三大題型整理歸納成表，提供日語學界研究與教學之需。

伍、參考文獻

- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘(2001)『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 庵功雄(2003)『『象は鼻が長い』入門』くろしお出版
- 岡本千万太郎(1942)『日本語教育と日本語問題』白水社
- 尾上圭介(1981)「「は」の係助詞性と表現的機能」『国語と国文学』志文堂
- 池上嘉彦(1981)『「する」と「なる」の言語学』大修館書店
- 池上嘉彦(1993)「『移動』のスキーマと『行為』のスキーマ」『外国語科学研究紀要』41卷3号、34-53
- 石綿敏雄・萩野孝野(1983)「結合価から見た日本文法」『文法と意味1 朝倉日本語新講座3』朝倉書店
- 石綿敏雄(1999)『現代言語理論と格』ひつじ書房
- 泉井久之助(1939)『言語の構造』弘文堂
- 榎本久彦(1979)「結合価理論とその成果」『月刊言語』8卷11号、46-53
- 大槻文彦(1897)『廣日本文典』三木佐助
- 北原保雄(1981)『日本語の世界6 日本語の文法』中央公論社
- 言語学研究会(編)(1983)『日本語文法・連語論(資料編)』むぎ書房
- 菊池康人(1995)「「は」構文の概観」益岡隆志・野田尚史・沼田善子(編)『日本語の主題と取り立て』くろしお出版
- 小泉保・船城道雄・本田晶治・仁田義雄・塚本秀樹(1989)『基本動詞活用辞典』大修館書店
- 小泉保(1990)『言外の言語学——日本語語用論』三省堂

- 小泉保 (1993) 『日本語教師のための言語学入門』大修館書店
- 小泉保 (1994) 『ウラル語統語論』大学書林
- 小泉保 (1995) 『言語学とコミュニケーション』大学書林
- 小泉保 (1999 a) 「最多格言語タバサラン語の名詞格体系」『月刊言語』28 卷
9 号、86-91
- 小泉保 (1999 b) 「ラック語の名詞格体系について」*Ars Linguistica* 6, 134-41
- 小泉保 (2003) 『改訂音声学入門』大学書林
- 小泉保 (2007) 『日本語の格と文型—結合価理論にもとづく新提案』大修館
- 国立国語研究所 (1951) 『現代語の助詞・助動詞——用法と実例』秀英出版
- 国立国語研究所 (1997) 『日本語における表層格と深層格の対応関係』三省堂
- 国際交流基金 (2002) 『日本語能力試験 出題基準[改訂版]』凡人社
- 児玉徳美 (1991) 『言語のしくみ』大修館書店
- 阪倉篤義 (1955) 『改稿日本文法の話』教育出版
- 佐久間鼎 (1943) 『日本語の言語理論的研究』三省堂
- 佐久間鼎 (1952) 『現代日本語法の研究』厚生閣
- 佐久間鼎 (1966) 『日本語の表現と語法』厚生閣
- 柴谷方良 (1978) 『日本語の分析』大修館書店
- 鈴木重幸 (1972) 『日本語文法・形態論』麦書房
- 鈴木重幸・南不二男他 (1978) 『話ことばの文型 (1)』秀英出版
- 城田俊 (1993) 「文法格と副詞格」仁田義雄 (編) (1993) 67-94
- 高橋太郎 (1998) 「動詞から見た形容詞」『月刊言語』27 卷 3 号、36-41
- 高見健一・久野暲 (2002) 『日英語の自動詞構文』研究社
- 田代直也 (2000) 『ハンガリー語の動詞の結合価——統語論的・意味論的検討』
関西外国語大学 博士論文
- 趙順文 (1995) 『結合価文法論考』立昌出版社
- 趙順文 (2004) 『日文法圖表分析』旺文社
- 寺村秀夫 (1982) 『日本語のシンタックスと意味 I』くろしお出版
- 時枝誠記 (1950) 『日本語文法 (口語篇)』岩波書店

- 飛田良文・浅田秀子 (1991) 『現代形容詞用法辞典』東京堂出版
- 永野賢 (1958) 『学校文法概説』朝倉書店
- 西尾寅弥 (1972) 『形容詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版
- 仁田義雄 (1980) 『語彙論的統語論』明治書院
- 仁田義雄 (1982) 「格の表現形式 日本語」『講座日本語学第 10 卷』明治書院
- 仁田義雄 (1999) 「日本語の格を求めて」西田義雄 (編) (1993) 1-37
- 野田春美 (1997) 『「の (だ)」の機能』くろしお出版
- 野田尚史 (1996) 『「は」と「が」』くろしお出版
- 芳賀綏 (1962) 『日本文法教室』東京堂出版
- 蓮沼昭子・前田直子・有田節子 (2001) 『日本語文法 9 条件表現』くろしお出版
- フィルモア, C. (1975) 『格文法の原理——言語の意味と構造』(田中春美・船城道雄訳) 三省堂
- 橋本進吉 (1969) 『助詞・助動詞の研究』岩波書店
- 林四郎 (1960) 『基本文型の研究』明治図書
- 益岡隆志・田窪行則 (1989 a) 『日本語文法 3 格助詞』くろしお出版
- 益岡隆志・田窪行則 (1989 b) 『基礎日本語文法』くろしお出版
- 益岡隆志・田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法』(改訂版) くろしお出版
- 松下大三郎 (1930) 『標準日本口語法』中文館書店
- 三尾砂 (1948) 『国語法文章論』三省堂
- 三上章 (1953) 『現代語法序説』刀江書院
- 三上章 (1960) 『象は鼻が長い』くろしお出版
- 三上章 (1963) 『日本語の構文』くろしお出版
- 南不二男 (1974) 『現代日本語の構造』大修館書店
- 南不二男 (1993) 『現代日本語文法の輪郭』大修館書店
- 宮地裕 (編) (1982) 『慣用句の意味と用法』明治書院
- 村木新次郎 (1991) 『日本語動詞の諸相』ひつじ書房
- 村木新次郎 (1998) 「名詞と形容詞の境界」『月刊言語』27 卷 3 号, 44-49

- 文部省 (1916) 『口語法』 大日本出版株式会社
- 文部省 (1917) 『口語法別記』 大日本図書株式会社
- 矢澤真人 (1998) 「日本語の感情・感覺形容詞」 『月刊言語』 27 卷 3 号, 50-55
- 山田孝雄 (1922) 『日本口語法講義』 宝文館
- 山梨正明 (1993) 「格の複合スキーマモデル——格解釈のゆらぎと認知のメカニズム」 仁田義雄 (編) (1993) 39-65
- 湯沢幸吉郎 (1977) 『口語法精説』 明治書院
- TESNIERE, Lucien (1966) *Elements de syntaxe structurale*. [2nd ed.] Paris: Klincksieck.
- 銘薪股份有限公司 (1999) 《新實用日本語會話 I 》 第二版
- 尚昂文化事業國際有限公司 第一版 (2001) 《高級中學日語第一冊》
- 尚昂文化事業國際有限公司 第一版 (2002) 《高級中學日語第二冊》
- 大新書局 (2003) 《新日本語の基礎 I 》 第一版
- 大新書局 (2003) 《大家的日本語初級 I 》 第二版
- 大新書局 (2002) 《大家的日本語初級 II 》 大新書局 第一版
- 大新書局 (2002) 《大家的日本語進階 I 》 大新書局 第一版
- 大新書局 (2002) 《大家的日本語進階 II 》 大新書局 第一版
- 大新書局 (2002) 《新文化日本語初級 I 》 大新書局 第一版
- 允晨文化實業股份有限公司 (2001) 《輕鬆學日語 (入門篇) 》 第一版
- 新文京開發出版有限公司 (2002) 《日本語大丈夫 》 第四版

陸、附錄

四級句型						
句首型						
1.1 名詞類						
1.1.1 助詞						
1	N	は				
2	N	も				
3	N ₁	も・N ₂	も			
4	N	が				
5	N	を				
6	N	を				
7	N	を				
8	N	に				
9	N	に				
10	N	に				
11	N	に				
12	N	へ				
13	N	に				
14	N	に				
15	N	から				
16	N	まで				
17	N	で				
18	N	で				
19	N	で				
20	N	で				
21	N	で				
22	N	と				
23	N ₁	と N ₂				
24	N ₁	と一緒に				
25	N ₁	や N ₂				
26	N ₁	か N ₂				
27	N	など				
28	N	ぐらい				
29	N	だけ				
30	N	しか+否定				
31	N ₁	より N ₂ のほうが				
32	N ₁	と N ₂ とどちらが				
33	N	で				
34	N ₁	は N ₂ ほど+否定				

	35	N ₁ はN ₂ が				
1.1.2 疑問詞						
	36	何				
	37	なん				
	38	だれ				
	39	どなた				
	40	いつ				
	41	なぜ				
	42	どうして				
	43	いくつ				
	44	いくら				
	45	疑問詞+か				
	46	疑問詞+も				
	47	疑問詞+でも				
1.1.3 数詞						
	48	いち、に、さん				
	49	ひとつ、ふたつ、 みっつ				
	50	数詞+助数詞				
	51	時間				
	52	月日				
1.2 副詞						
	53	Aく+ない				
	54	NAに+なる				
	55	Nに+なる				
	56	Aく+V				
	57	NAに+V				
	58	あまり+否定				
	59	もう+肯定				
	60	もう+否定				
	61	まだ+肯定				
	62	まだ+否定				
	63	中ちゆう				
	64	中じゆう				
	65	ころ				
	66	ごろ				
1.3 接続詞						
	67	それから				
	68	そして				
	69	でも				
	70	では/じゃ				

	71	それでは/それじゃ					
	72	だから					
	73	けれども					
句中型							
2.1 接続助詞			V	A	NA	N	
	74	～て、	て	くて	で	で	
	75	～たり、	た	かった	だった	だった	り、
	76	～から、	原/た	い/かった	だ/だった	だ/だった	から、
	77	～けれども、	原/た	い/かった	だ/だった	だ/だった	けれども、
	78	～とき(に)、	原/た	い/かった	な/だった	の/だった	とき(に)、
	79	～ないで、	V ₁				ないで、
	80	～ながら、	V ₂				ながら、
	81	～てから、	て				てから、
	82	～前に、	原			の	前に、
	83	～あと(で)、	た			の	あと(で)、
2.2 連体修飾語							
	84	～+N	原/た	い	な	の	N
句尾型							
3.1 動詞類							
3.1.1 名詞+だ							
	85	N です					
	86	N ではありません					
	87	N でした					
	88	N ではありません でした					
	89	N だ					
	90	N ではない					
	91	N だった					
	92	N ではなかった					
3.1.2 形容動詞							
	93	NA です					
	94	NA ではありません					
	95	NA でした					
	96	NA ではありません でした					
	97	NA だ					
	98	NA ではない					
	99	NA だった					
	100	NA ではなかった					
	101	N ₁ は N ₀ がすきだ					
	102	N ₁ は N ₀ がきらいだ					

3.1.3 形容詞						
	103	Aです				
	104	Aくないです				
	105	Aくありません				
	106	Aかったです				
	107	Aくなかったです				
	108	Aくありませんでした				
	109	A原形				
	110	Aくない				
	111	Aかった				
	112	Aくなかった				
	113	N ₁ はN ₀ がほしい				
3.2 動詞						
	114	V ₂ ます				
	115	V ₂ ません				
	116	V ₂ ました				
	117	V ₂ ませんでした				
	118	V原形				
	119	V ₁ ない				
	120	Vた				
	121	V ₁ なかった				
3.3 狭義動詞後接助動詞						
	122	V ₁ ないてください				
	123	V ₁ ないほうがいい				
	124	V ₂ ましょう				
	125	V ₂ ましょうか				
	126	V ₂ ませんか				
	127	V ₂ +たい				
	128	V ₂ +たがる				
	129	V ₂ +方				
	130	V ₂ +やすい				
	131	V ₂ +にくい				
	132	V原+つもりです				
	133	V原+ことができる				
	134	V ₁ れる/られる				
	135	Vてください				
	136	Vてくださいませんか				
	137	Vている				
	138	Vている				

	139	Vである					
	140	Vたことがある					
	141	Vたほうがいい					
3.4 動詞句型							
	142	N ₁ にN ₀ がある/いる					
	143	N ₀ はN ₁ にある/いる					
	144	N ₁ でN ₀ がある					
	145	N ₁ はN ₀ がある					
	146	N ₀ がN ₂ にN ₁ をあげる					
	147	N ₀ がN ₂ にN ₁ をやる					
	148	N ₀ がN ₁ にN ₂ をさしあげる					
	149	N ₀ がN ₂ にN ₁ をもらう					
	150	N ₀ がN ₂ にN ₁ をいただく					
	151	N ₀ がN ₂ にN ₁ をくれる					
	152	N ₀ がN ₂ にN ₁ をくださる					
	153	N ₀ がN ₂ にN ₁ をください					
3.5 廣義動詞後接助動詞							
	154	～だろう	原/た	い/かった	NA/だった	N	
	155	～かもしれない	原/た	い/かった	NA/だった	だ/だった	
	156	～と思う	原/た	い/かった	だ/だった	だ/だった	
	157	～と言う	原/た	い/かった	だ/だった	だ/だった	
	158	～てもいい/かまわ ない/よろしい	ても	くても	でも	でも	
	159	～てはいけない	ては	くては	では	では	
	160	～なければなら ない/なくては いけない	V ₁ なければ	くなければ	じゃなければ	じゃなければ	
	161	～なくてもいい/か まわらない	V ₁ なくても	なくても	じゃなくても	じゃなくても	
	162	～か	原/た	い/かった	だ/だった	だ/だった	
	163	～よ	原/た	い/かった	だ/だった	だ/だった	
	164	～ね	原/た	い/かった	だ/だった	だ/だった	

三級句型						
句首型						
1. 名詞類						
1.1 名詞						
	1	Nでございます				
	2	お・ご+N				
	3	Nのこと				
	4	Aさ				
	5	N ₁ というN ₂				
	6	N ₁ のようなN ₂				
1.2 助詞						
	7	Nなら				
	8	Nによって/によると				
	9	Nばかり				
	10	Nも				
	11	Nまでに				
	12	Nとか				
	13	Nから				
	14	とは				
1.3 接続詞						
	15	しかし				
	16	それで				
句中型						
2.1 接続助詞		V	A	NA	N	
	17	～ずに、	V ₁			ずに、
	18	～たまま、	た			たまま、
	19	～と、…た	原			と、…た
	20	～(ない)ように、	原/V ₁			(ない)ように、
	21	～ため(に)、	原/V ₁		の	ため(に)、
	22	～あいだに、	原	い	な	の
	23	～うちに、	原/V ₁	い	な	の
	24	～が、	原/た	いかった	だけだった	だけだった
	25	～し、	原/た	いかった	だけだった	だけだった
	26	～と、	原	いかった	だけだった	だけだった
	27	～ば、	(れ)ば、	ければ、	であれば、	であれば、
	28	～たら、	たら、	かったら、	だったら、	だったら、
	29	～なら、	原/た	い	NA	N
	30	～ても、	ても	くても	でも	でも
	31	疑問詞+～ても、	ても	くて	でも	でも
						疑問詞+～ても

	32	～ので、	原/た	い/かった	だ/だった	だ/だった	ので、
	33	～のに、	原/た	い/かった	だ/だった	だ/だった	のに、
2.2 連体修飾語							
	34	～+N	原/た	い/かった	だ/だった	だ/だった	N
句尾型							
3.1 動詞類							
3.1.1 動詞専用助動詞							
	35	お+ V ₂ +する					
	36	お+ V ₂ +いたす					
	37	お+ V ₂ +になる					
	38	お+ V ₂ +くださる					
	39	V ₁ (さ)せる					
	40	V ₁ (さ)せてください					
	41	V ₁ (ら)れる(尊敬)					
	42	V ₁ (ら)れる(受身)					
	43	V ₁ (さ)せられる					
	44	V ₂ なさい					
	45	V ₂ な					
	46	V ₂ だす					
	47	V ₂ 始める					
	48	V ₂ 終わる					
	49	V _原 ようになる					
	50	V _原 ようにする					
	51	V _原 ことがある					
	52	V _原 ことにする					
	53	V _原 ことになる					
	54	V _命					
	55	V _う /ようと思う					
	56	V _て やる					
	57	V _て あげる					
	58	V _て さしあげる					
	59	V _て もらう					
	60	V _て いただく					
	61	V _て くれる					
	62	V _て くださる					
	63	V _て ほしい					
	64	V _て みる					
	65	V _て しまう					
	66	V _て いく					
	67	V _て くる					
	68	V _て おく					

69	V てばかりいる					
70	V 原ところだ					
71	V たところだ					
72	V ているところだ					
73	V たばかりだ					
74	N がする					
75	V 原な(禁止)					
76	V 原べきだ					
3.2 廣義動詞後接助動詞						
77	～からです	原/た	い/かった	だ/だった	だ/だった	からです
78	～だろう	原/た	い/かった	NA/だった	N/だった	だろう
79	～はずだ	原/た	い/かった	な/だった	の/だった	はずだ
80	～のだ	原/た	い/かった	な/だった	な/だった	のだ
81	～ようだ	原/た	い/かった	な/だった	の/だった	ようだ
82	～らしい	原/た	い/かった	NA/だった	N/だった	らしい
83	～そうだ	原/た	い/かった	だ/だった	だ/だった	そうだ
84	～そうだ	V ₂	A	NA		そうだ
85	～すぎる	V ₂	A	NA		すぎる
86	～がる		A	NA		がる
87	～わ	原/た	い/かった	だ/だった	だ/だった	わ

二級句型						
句首型						
1	「N から N に かけて」					
2	「N からいうと/ からいえば/から いって」					
3	「N からして」					
4	「N からすると/ からすれば」					
5	「N から見ると/ から見れば/から 見て/から見ても」					
6	「N 上/上は/ 上も」					
7	「N において/に おいては/におい ても/における」					
8	「N に応じて/に 応じ/に 応じては/ に 応じても/に 応じた」					

9	「N にかかわらず ／にもかかわらず ／にかかわりなく ／にはかかわりなく」					
10	「N に限って／に 限り／に限らず」					
11	「N にかけては／ にかけても」					
12	「N にかわって／ にかわり」					
13	「N に関して／に 関しては／に関し ても／に関する」					
14	N に比べて／に 比べ」					
15	「N に加えて／に 加え」					
16	「N にこたえて／ にこたえ／にこた える」					
17	「N に沿って／に 沿い／に沿う／に 沿った」					
18	「N に対して／に 対し／に対しては ／に対しても／に 対する」					
19	「N について／に つき／については ／についても／に ついての」					
20	「N にとって／に とっては／にとっ ても／にとつての」					
21	「N に反して／に 反し／に反する／ に反した」					
22	「N に基づいて／ に基づき／に基づ く／に基づいた」					
23	「N によって／に より／によっては ／による／による と／によれば」					

24	「N にわたって／ にわたり／にわた る／にわたった」					
25	「N(は／を) ぬき で／ぬきでは／ぬ きに／ぬきには／ ぬきの」					
26	「N のもとで／の もとに」					
27	「N はともかく／ はともかくとして」					
28	「N はもちろん／ はもとより」					
29	「V／A／NA な／ Nな／である もの だから、」					
30	「N をきっかけに ／をきっかけとし て／をきっかけに して」					
31	「N を契機に／を 契機として／を契 機にして」					
32	「N をこめて」					
33	「N を中心に／を 中心として／を中 心にして」					
34	「N を通じて／を 通して」					
35	「N を問わず／ は問わず」					
36	「N をぬきにして ／をぬきにしては ／はぬきにして」					
37	「N をはじめ／を はじめとする」					
38	「N をめぐって／ をめぐる」					
39	「N をもとに／を もとにして」					
句中型						
2.1 接続助詞		V	A	NA	N	
40	～あげく／あげく に、	た			の	あげく／あげくに
41	～あまり、	原/た	い/かった	な/だった	の	あまり、

42	～以上／以上は、	原/た	い/かった	な/だった	である/だった	以上、
43	～一方／一方で／一方では、	原	い	な	の/である	一方/一方で/一方では、
44	～うえ／うえに、	原/た	い/かった	な/だった	である	うえ/うえに、
45	～上で／上の／上では／上でも／上での	た			の	上では、
46	～上は、	原/た	い	な	である	上は、
47	～うちに／ないうちに、	原 / V ない	い	な	の	うちに、
48	～おかげで、／おかげだ。	原/た	い	な	である	おかげで、
49	～かぎり／かぎりには／かぎりでは、	原/た	い	な	である	かぎり、
50	～かと思うと／かと思ったら／と思うと／と思ったら、	原/た	い	NA	N	かと思うと/かと思ったら/と思うと/と思ったら、
51	～かのうちに、	原 / V ない				...か...ないかのうちに、
52	～からといって、	原/た	い	だ	だ	からといって、
53	～からには／からは、	原/た	い	である	である	からには/からは、
54	～かわりに	原/た	い	な	の	かわりに、
55	～きり／きりだ。	た			これ/あれ / N	きり、
56	～くせに、	原/た	い	な	の	くせに、
57	～くらい／ぐらい、／ぐらいだ。	原/た	い	である	N	くらい/ぐらい、
58	～こそ、	原	い	な	N	こそ、
59	～ことから、	原/た	い	な		ことから、
60	～ことだから	原	い	な	の	ことだから、
61	～ことなく、	原				ことなく、
62	～ことに(は)、	原/た	い	な		ことに(は)、
63	～際／際に／際は、	原/た	い	な	の	際/際に/際は、
64	～最中に、／最中だ。	ている / ていた	い		の	最中に、
65	～さえ、	V ₂	く	で	で	さえ、
66	～さえ ～ば／れば、	ば/れば				N さえ...れば、

67	～次第、	V ₂				次第、
68	～末／末に、／ 末の	た			の	末／末に、
69	～せいだ／せいで／ せいか、	原/た	い	な	の/である	せいで/せいか、
70	～だけ／だけあって／ だけに、／ だけの	原	い	な	N	だけ/だけあって/ だけに/だけの
71	たとい／たとえ ～て/でも、	て	くて	で	で	たといたとえ... ても/でも
72	～たび／たびに、	原			の	たび/たびに、
73	～ついでに、	原/た			N	ついでに、
74	～つつ／つつも、	V ₂				つつ/つつも、
75	～て以来、	て			N	以来、
76	～てからでないと ／ てからでなければ、... できない。	て				からでないと/か らでなければ、... できない
77	～という／とい えば／ といったら	原	い	だ	N	という/といえ ば/ といったら、
78	～というより、	原	い	だ	N	というより、
79	～といっても、	原	い	だ	N	といっても、
80	～とおり／ と おりに、「N どおり／ どおりに」	原/た	い	な	の	とおり/とおりに、
81	～ところ、	た				ところ、
82	～どころか、	原	い	NA	N	どころか、
83	～ところに／ と ころへ／ ところを、	ている	い		の	ところに/ところ へ/ ところを、
84	～としたら／ と すれば、	原/た	い	だ	だ	としたら/とす れば、
85	～として／ と しては、 ～ としても、	原/た	い	だ	だ	としては、/ として も、
86	～とたん／ と たんに、	た				とたん/とたんに、
87	～とともに	原	い	である	N/である	とともに
88	～ながら、	V ₂	い	であり	であり	ながら、
89	～など／ な んか ／ なんて	原	い		N	など/なんか/ なん て
90	～にあたって／ に あたり、	原			N	にあたって/ にあ たり、

91	～に際して／に際し、／に際しての	原			N	に際して/に際し/に際しての
92	～に先立って／に先立ち、／に先立つ	原			N	に先立って/に先立ち、
93	～にしたがって／にしたがひ、	原			N	にしたがって/にしたがひ、
94	～にしたら／にすれば／にしても				N	にしたら/にすれば/にしても
95	～である／N にしては、	原	い	である	N	にしては、
96	～にしろ／せよ＋～にしろ／せよ、	原	い	NA	N	にしろ/せよ、... にしろ/せよ、
97	～につけ／につけては／につけても、	原	い		N	につけ/につけては/につけても、
98	～につれて／につれ、	原			N	につれて/につれ、
99	～に伴って／に伴い／に伴う				N	に伴って/に伴い
100	～のみならず、	原	い	な	である	のみならず、
101	Nも～ば/れば、Nも					
102	～であれば ～ほど	ば/れば	ければ	であれば		...であれば...ほど
103	～ば/れば ＋ V ～ほど、	ば/れば	ければ	であれば	であれば	...であれば...ほど
104	～ばかりか／ばかりでなく、	原	い	な	N	ばかりか/ばかりでなく、
105	～ばかりに	原	い	な		ばかりに、
106	～反面／半面、	原/た	い	な	の/である	反面、
107	～ほどだ。／ほど、／ほどの	原/た	い	な	N	ほど、
108	～もかまわず				N	もかまわず
109	～ものなら、...たい。	V _能				ものなら、...たい
110	～(とはいう) もの、	原	い	である	である	とはいう ものの
111	～やら ＋～やら、	原	い	な	の	やら、
112	～ように、	原/V ₁	い	な	の/である	ように、

113	～わりに／わりには、	原/た	い	な	の	わりに/わりには、
句尾型						
114	～一方だ。	原	くなる	になる	の	一方だ。
115	～う/よう ではないか／(じゃないか)	V				う/よう ではないか
116	～得る。	V ₂				得る
117	～おそれがある。	原	い	な	の	おそれがある。
118	～かけた／かけの／かける	V ₂				かけた/かけの/かける
119	～がたい。	V ₂				がたい。
120	～がちだ。／がちの	V ₂			N	がちだ。/がちの
121	～かねる。	V ₂				かねる。
122	～かねない。	V ₂				かねない。
123	～かのようだ。	原	い	な	である	かのようだ。
124	～気味	V ₂			N	気味
125	～きる／きれぬ／きれない。	V ₂				きる/きれぬ/きれない。
126	～げ		A	NA		げ
127	～ことか。	原	い	な		ことか。
128	～ことだ。	原	い	な	の	ことだ。
129	～ことになっている／こととなっている。	原 /V ない				ことになっている/こととなっている。
130	～ことはない。	原				ことはない。
131	～ざるをえない。	V ₁				ざるをえない。
132	～しかない。	原			N	しかない。
133	～次第だ。／次第で／次第では	原	い	な	N	次第だ。/次第で/次第では
134	～ずにはいられない。	V ₁				ずにはいられない。
135	～だらけ				N	だらけ
136	～だっけ。	原	い	だ	だ	だっけ。
137	～っこない。	V ₂				っこない。
138	～つつある。	V ₂				つつある。
139	～っぽい	V ₂	A	NA	N	っぽい
140	～てしょうがない。	て	くて	で		てしょうがない。
141	～て たらぬ。	て	くて	で		て たらぬ。
142	～て ならない。	て	くて	で		て ならない。

143	~ということだ。	原	い	だ	だ	ということだ。
144	~というものだ。	原	い	NA	N	というものだ。
145	~というものではない／ というものでもない。	原	い	NA	N	というものではない。 /というものでもない。
146	~とか。	原	い	だ	N	とか。
147	~どころではない。 ／どころではなく、	原	い	な	N	どころではない。 /どころではなく、
148	~ないことには... ない。	V ₁	く	で	で	ないことには... ない。
149	~ないことはない ／ないこともない。	V ₁	く	で	で	ないことはない。 /ないこともない。
150	~ないではいられない	V ₁				ないではいられない。
151	~にきまっている。	原/た	いかった	NA	N/だった	にきまっている。
152	~にすぎない。	原/た	いかった	NA/だった	N/だった	にすぎない。
153	~に相違ない。	原/た	いかった	NA/だった	N/だった	に相違ない。
154	~に違いない。	原/た	いかった	NA/だった	N/だった	に違いない。
155	~にほかならない。	原/た	いかった	NA/だった	N/だった	にほかならない。
156	~ぬく。	V ₂				ぬく。
157	~べき／べきだ／ べきではない。	原				べき。/べきだ。 /べきではない。
158	~ほかない／より ほかない／ほか はない／よりほか はない／ほかし かたがない。	原			あれ/それ /これ	ほかない/よりほ かない/ほかはない /ほかしかたが ない。
159	~まい／~Vう/よう か+~まいか	原/Vう/Vよう				まいか
160	~向きだ。／向き に、／向きの	原			N	向きだ。/向きに、 /向きの
161	~向けだ。／向け に、／向けの	原			N	向けだ。/向け に、/向けの
162	~もの	原	い	だ	だ	もの
163	~ものがある	原	い	な		ものがある
164	~ものか	原 /V ない	く /くない	な		ものか
165	~ものだ／もので はない	原	く /くない	な		ものだ。/もので はない。
166	「V2 ようがない ／ようもない。」	V ₂				ようがない。/よう もない。
167	~わけがない／ わけはない。	原	い	な	の	わけがない。/わ けはない。

168	～わけだ／わけではない／わけでもない。	原	い	な		わけだ。/わけではない。/わけでもない。
169	～わけにはいかない／わけにもいかない。	原 /V ている /V ない				わけにはいかない。/わけにもいかない。
170	～を～として／とする／とした				N	...を...として/とする/とした。

一級句型						
句首型						
	1	N(の)いかんだ／いかんで／いかんでは／いかんによっては／いかんによらず／いかんにかかわらず				
	2	N かたがた				
	3	N たりとも				
	4	NA/N であれ + (NA/N であれ)				
	5	N と相まって、				
	6	Nといい、Nといい、				
	7	N ときたら				
	8	N なしに／なしには、				
	9	N にあって				
	10	V原/N に至る。 ／に至るまで／に至って／に至っては／に至っても、				
	11	N にかかわる				
	12	N にして、				
	13	N に即して／に即しては／に即しても／に即した				
	14	N にもまして				
	15	N はおろか				
	16	N を おいて				
	17	N を限りに				
	18	N を皮切りに／を皮切りにして／を皮切りとして				

	19	N をもって					
	20	N をものともせず に					
	21	N をよそに					
句中型							
		連体修飾語	V	A	NA	N	
	22	～あつてのN				N	(が)あつての N
	23	～からある				N	からある
	24	～たる				N	たる
	25	～ならでは／なら ではの				N	ならでは／ならで はの...
	26	～に足る	原			N	に足る
	27	～まじき	原				まじき
接続助詞							
	28	～が／と + (V まい が／と)、	Vう/よう				と、Vまい が
	29	～が最後、	た			これ、そ れ、あれ	が最後、
	30	～かたわら、	原			の	かたわら、
	31	～がてら、	V ₂			N	がてら、
	32	～が早いか、	原				が早いか、
	33	～からというもの、	て				からというもの、
	34	～ごとき／～ごと く、	原			の/が	ごとき／～ごと く、
	35	～こととて、	原	い	な	の	こととて、
	36	～ことなしに、	原				ことなしに、
	37	～すら	V ₂ /て	く	で	で	すら
	38	～そばから、	原/た				そばから、
	39	ただ+～+のみ/ のみならず、	原	い	な	N	ただ+...のみの みならず、
	40	～たところで、	た				たところで、
	41	～だに	原/V ₂			N	だに
	42	～つ～つ、	V ₂				...つ...つ、
	43	～て/でないまで も、	て	く	で	で	て/でないまでも、
	44	～ではあるまい し、				N	ではあるまいし、
	45	～とあつて／とあ れば、	原	い	だ	N	とあつて/とあれ ば、
	46	～といえども、	原	い	だ	だ	といえども、
	47	～と思いきや、	原	い	だ	N	と思いきや、
	48	～ところを、	ている	い		の	ところを、

49	～としたところで／ としたって／にし たところで／にし たって、	原	い			としたところで／ としたって／にし たところで／にし たって、
50	～とは、	原	い	だ	だ	とは、
51	～とはいえ、	原	い	だ	だ	とはいえ、
52	～とばかりに、	原	い	だ	だ	とばかりに、
53	～ともなく／ともな しに +V	原				ともなく／ともな しに +V
54	～ともなると／とも なれば、	原	い	NA	N	ともなると／ともな れば、
55	～ながらに	V ₂			N	ながらに、
56	～ながらも、	V ₂	い	であり	であり	ながらも、
57	～なくして／なくし ては、...ない。				N	なくして／なくし ては、...ない。
58	～なり、	原/た				なり、
59	～なり + ～なり、	原	い	NA	N	...なり、...なり、
60	～なりに、	原	い	な	N	なりに、
61	～にひきかえ	原の	いの	なの	N	にひきかえ、
62	～(であ)れば こ そ、	ば/れば	ければ	であれば	であれば	...(であ)れば こそ、
63	ひとり+～+だけ ではなく／のみな らず、	原	い	な	な	ひとり+...+だ けでなく／のみな らず、
64	～べく、	原				べく、
65	～もさることながら				N	もさることながら
66	～ものを、	原	い	な	である	ものを、
67	～や／や否や、	原				や／や否や
68	～ゆえ／ゆえに、 ／ゆえの	原	い	な	N	ゆえ／ゆえに、 ／ゆえの
69	～んがため／ん がために、／んが ための	V ₁				んがため／んが ために、／んが ための
70	～んばかりだ。／ んばかりに、／ん ばかりの	V ₁				んばかりだ。／ん ばかりに、／ん ばかりの
句尾型						
71	～にも+V能ない。	Vう/よう				にも+V能ない。
72	～かぎりだ。		い	な	N	かぎりだ。
73	～きらいがる。	原/V ₁			の	きらいがる。
74	～極まる／極まり ない。			NA	N	極まる／極まり ない
75	～しまつた。	原/V ₁			この/その/ あの	しまつた。

76	~ずくめ			NA	N	ずくめ
77	~ずにはおかない。	V ₁				ずにはおかない。
78	~ずにはすまない。	V ₁				ずにはすまない。
79	~っぱなした。	V ₂				っぱなした。
80	~でなくてなんだろう。				N	でなくてなんだろう。
81	~やまない。	て				やまない。
82	~というところだ／ といったところだ。	原	い	だ	だ	というところだ。/ といったところ だ。
83	~といたらない ／といたらあり はしない／ありや しない。	原	い	NA	N	といたらない/ といたらありは しない／ありやし ない。
84	~ないではおかない。	V ₁				ないではおかない。
85	~ないではすまない。	V ₁				ないではすまない。
86	~ないものでもない。	V ₁				ないものでもない。
87	~に(は)あたら ない。	原				に(は)あたら ない。
88	~にかたくない。	原			N	にかたくない。
89	~にたえる／にた えない	原			N	にたえる/にたえ ない
90	~の至り				N	の至り
91	~の極み			NA	N	の極み
92	~(であ)れば/な らば それまで だ。	ば/れば	ければ	であれば/な らば	であれば/ ならば	それまでだ。
93	~べからず。／べ からざる	原				べからず。／べ からざる
94	~までだ／までの ことだ。	原			これ、そ れ、あれ	までだ／までの ことだ。
95	~までもない。／ までもなく、	原				までもない。／ま でもなく、
96	~まみれ				N	まみれ
97	~めく。		A	NA	N	めく。
98	~を禁じ得ない。				N	を禁じ得ない。
99	~を余儀なくされ る／を余儀なくさ せる。				N	を余儀なくされる ／を余儀なくさせ る。